



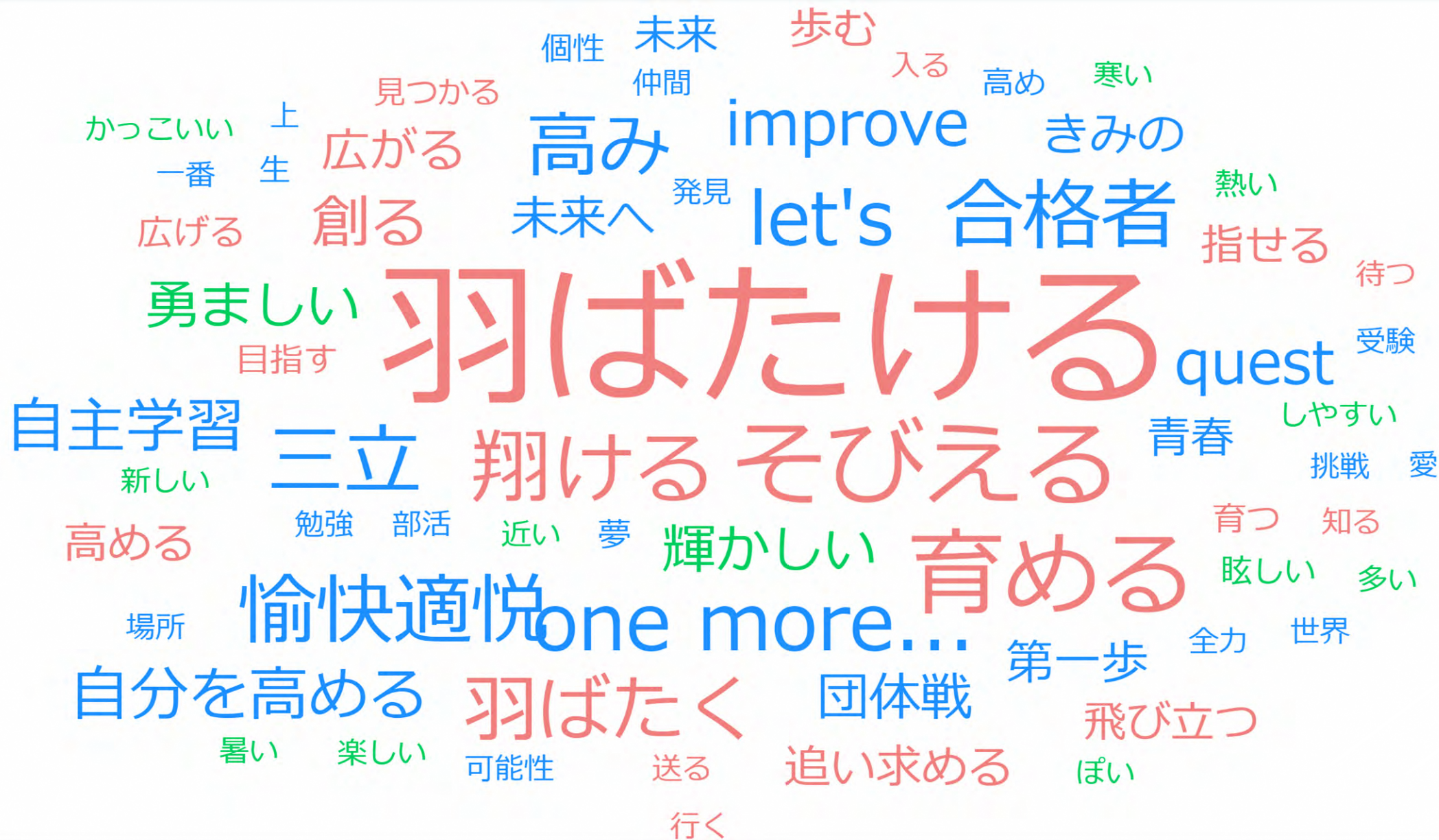
令和6年度 「新時代に対応した 高等学校改革推進事業」 指定校発表会

期 日 令和6年9月26日(木)
場 所 文部科学省 旧文部省庁舎6階第2講堂
説明者 北海道釧路湖陵高等学校
校長 塙 浩伸

北海道釧路湖陵高等学校

湖陵生が考えた湖陵高校のキャッチコピー（抄）

- 「伸びる私」はかっこいい。 ○夢に向かっての第一歩 ○未来へ羽ばたけ！！
- 学べる環境が整っている ○高め合える高校 ○ワンフォーオールで一致団結
- 迷ったら湖陵！ ○個性たっぷり！ ○輝かしい未来と青春を共に歩もう
- 湖陵の坂を登った先には新しい未来が待っている ○天をも貫く湖陵の光
- 未来は待つものじゃない、創るんだ。 ○輝け、自分。 ○何事にも挑戦してみる
- 知りたいのその先へ ○今を学ぼう 自分を学ぼう 夢を学ぼう ○未来に紡ぐ
- 文武両道それすなわち湖陵スタイル ○学びの先の楽しさを！ ○学びを深める
- 知りたいを追い求められる学校 ○夢を叶えたい君へ ○学びたいことを学べる
- 広がる不思議に、行け！湖陵生よ！ ○見て驚き、入って変わる。 ○切磋琢磨
- 伝説多き真紅の高校 ○やりたいことが見つかる ○あとに続け自分を高める場
- ココで見つかる、やりたいこと。 ○Improve ○自ら学びを！ ○自主性
- One more thing ○今しかできないことを、ここで ○想像を未来に
- 高めあえる学校！ ○夢中になれる学びがここにある。 ○攻め湖陵
- あなたの学び「シンカ」する ○可能性が広がる学校 ○夢へと歩む
- 湖陵にきたらきっとできる ○沢山の新しい発見を！！ ○夢をつかむ
- ここから飛び立つ ○有限で求める無限の可能性 ○やりたい事を追求できる学校



テキストマイニング解析②：スコア（単語の重要度を加味）

■前回の運営指導委員会での助言等

- 指導助言の内容
- 今年度の取組の重点

■今年度の特色ある取組

- 生徒の探究活動
- 探究に係る学校設定教科・科目の取組
- 海外との連携・活動状況
- コンソーシアムとの連携

■コーディネーターの活用の成果や課題

■次年度以降の教育課程の編成・実施等

本日の説明内容

指導・助言の内容(R6.2)

- 取組の持続と人事異動等による**業務の引継に課題**があると考え。町の人が高校を支えるだけではなく、**一緒に生徒と学ぶことも大切**。
- 取組の成果は生徒の変化に現れており、**生徒の主体性をどう育むかは課題**の一つである。普通科改革では、学びの面白さを味わうことが最優先に位置付けられていると考える。学びの**主体性の軸を見失わないように成果を検証**してほしい。
- 見学旅行等の実体験から定性的な課題を見つけることや、**コミュニケーション力をつけるためにも現場での体験が必要**。会社では「ブリーフィング→仕事→振り返り」というPDCAサイクルを大切にしている。また、**端的に言いたいことをまとめる作文能力は必要**。会社に入ると何から何まで分析することになる。エビデンスベースにするため、理科でも国語でも、**探究学習の中で分析する経験**を積んでほしい。
- **教育改革の本質は、1時間1時間の授業改善**と考える。生徒が分かる面白さを体験できる授業をどこまでできるかが大切で、この視点を忘れると探究学習や大学入試にだけ目が向いてしまう。**高校だけで学びを行うのではなく、小学校や中学校とも連携**してほしい。中学校での学びを踏まえ、ただの調べ学習ではなく、**探究のレベルを高校生レベルに**上げてほしい。また、探究の目的を保護者に伝えないと、学校名だけで高校を選択してしまうので、伝えてほしい。
- **データサイエンスと生徒がワクワクすることが大切**になる。学校とともに、教育委員会としてもワクワクしながら高校を支援したい。
- 新学科が具体的に動き出すので、現在の取組がどのようにフラッシュアップされていくか見ていきたい。**地域資源の活用が大切。社会教育主事のようなネットワークを持つCNが必要**ではないか。湖陵高校はOBが市内の経済界を動かしているのでアドバンテージがあると考え。
- **エージェンシーには社会変革を促す力も含まれており、大切な概念**。「公共」など科目の学習内容と関連させて育成してほしい。3校の取組を全道の高校で実施できるよう、道教委として発信して学びにつなげてほしい。
- 探究のサイクルを回すことで、活動が洗練されてきた。**今後は教科等横断的な学びが大切**。特別活動とも連動させることで時間も節約できる。

今年度の取組の方向性

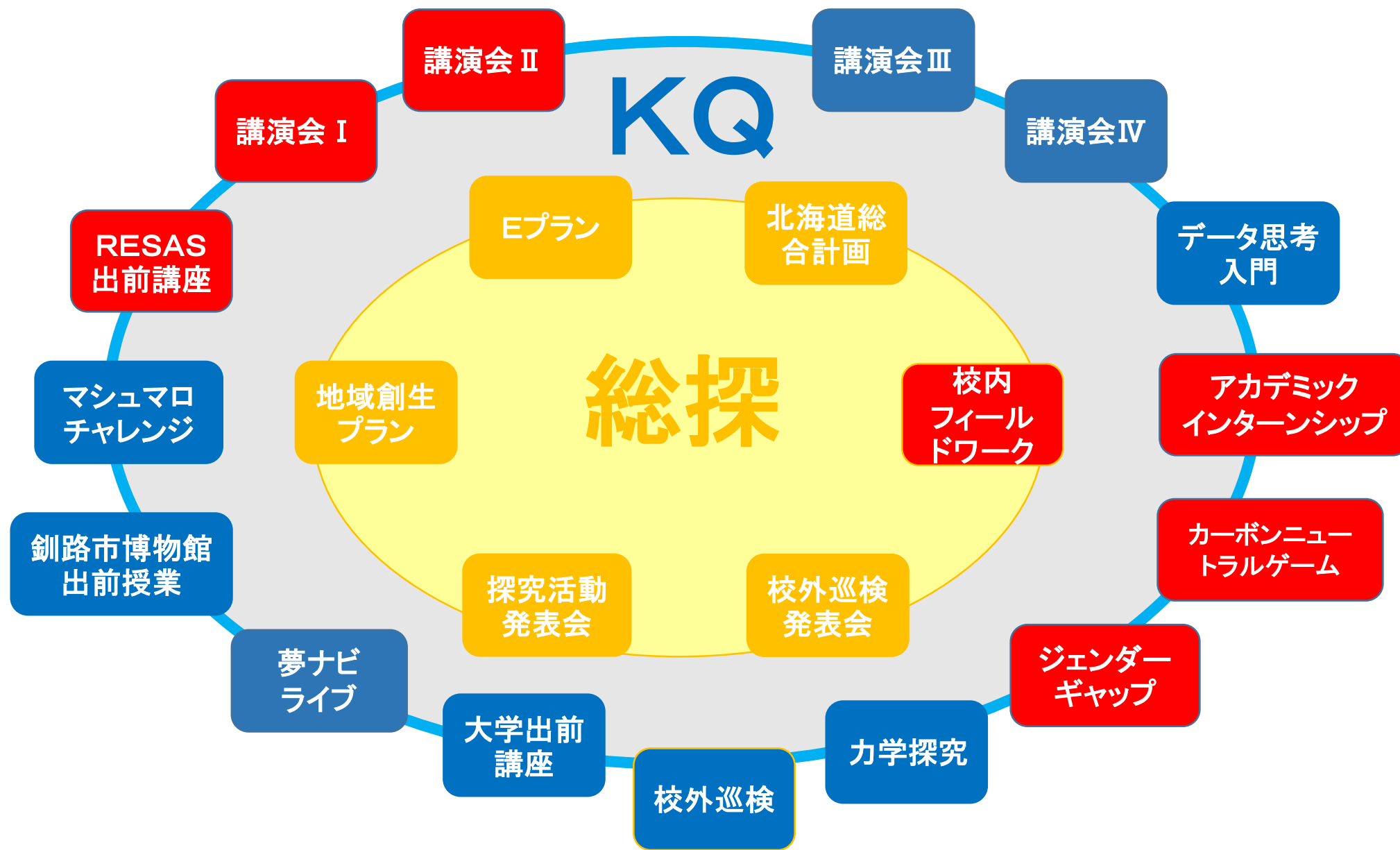
- 地域の人々が高校を支えるだけではなく、一緒に生徒と学ぶこと。
- 生徒の主体性を育むことが大切であり、学びの主体性の軸を見失わないように成果を検証すること。
- コミュニケーション力をつけるための現場での体験や端的に言いたいことをまとめる作文能力は必要であること。
- エビデンスベースにするため、探究学習の中で分析する経験を積むなど、データサイエンスの学びを重視すること。
- 高校だけで学びを行うのではなく、小学校や中学校とも連携すること。
- 探究の目的を保護者に伝えるとともに、探究のレベルを高校生レベルに上げること。
- 地域資源の活用が大切であり、社会教育主事のようなネットワークを持つコーディネーターが必要であること。
- 今後は教科等横断的な学びが大切であること。

今年度の取組の方向性と新たな取組

- 地域の人々が高校を支えるだけでなく、一緒に生徒と学ぶこと。【②】
- 生徒の主体性を育むことが大切であり、学びの主体性の軸を見失わないように成果を検証すること。【①②③④⑤】
- コミュニケーション力をつけるための現場での体験や端的に言いたいことをまとめる作文能力は必要であること。【①②】
- エビデンスベースにするため、探究学習の中で分析する経験を積むなど、データサイエンスの学びを重視すること。【①②】
- 高校だけで学びを行うのではなく、小学校や中学校とも連携するとこと。【②】
- 探究の目的を保護者に伝えるとともに、探究のレベルを高校生レベルに上げること。【①②③④⑤】
- 地域資源の活用が大切であり、社会教育主事のようなネットワークを持つCNが必要であること。【②⑥】
- 今後は教科等横断的な学びが大切であること。【①②③④⑤】

- 
- ①カーボンニュートラルゲームの工夫・改善
 - ②アカデミック・インターンシップの実施
 - ③外部講師を活用した各種講演会・講話の充実
 - ④「探究ルーム」の新設
 - ⑤「教科横断型PBL授業」の推進に向けた校内研修の実施
 - ⑥組織の改組と「校内コーディネーター」の指名

KQ（湖陵クエスト）と総合的な探究の時間



①カーボンニュートラルゲームの工夫・改善

夢中になって課題に取り組む生徒たち！

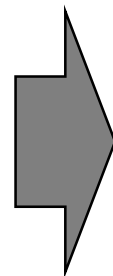
取組のねらい

- 私たちが行ってきた様々な活動が、地球環境にどのような影響を与えているのかをマクロ的に俯瞰させる。
- 私たちの価値観や考え方を振り返り、地球市民の一員として現代的な諸課題の解決を図る姿勢を育成する。

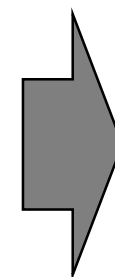


今年度の工夫・改善

RESAS
出前講座



カーボン
ニュートラル
ゲーム



環境問題
講話

- 生徒の学習状況を踏まえ、サイエンスの視点から、取組の順序を改善したことで、生徒の理解や環境問題への関心が高まった。



②アカデミックインターンシップの実施

「探究的な学び」を深めるためには？

大学等の**関係機関との連携**が重要！ **アカデミックインターンシップを実施**

生徒が、教育大釧路校、釧路公立大、釧路高専を訪問し、探究のテーマや研究方法について、教授や学生から具体的アドバイス！

例：釧路高専のプログラム

- 10:00～ 開会式
- 10:10～ 説明「高専の教育と研究」
- 10:20～ 授業・実験・施設見学
- 11:25～ 留学生による講演、グループ懇談
- 12:10～ 昼食・休憩
- 13:00～ **班別活動「卒研究生との課題探究」**
- 14:40～ 感想・気付き報告会

探究活動の進め方などがスッキリ明確に！



北海道新聞

2024/07/23 道東

研究テーマの広げ方、まとめ方は？

釧路湖陵高生大学、高専に学ぶ
釧路湖陵高は本年度から本格導入している独自の探究科目の一環で、生徒が市内の大学などで研究方法を学ぶ研修を行った。参加者はグループごとに学生らと交流し、課題設定やデータの集め方、発表の工夫について理解を深めた。

同校は本年度から、これまで普通科を「文理探究科」に転換し、グループごとに研究テーマを設定し、学習を進める「総合的な探究の時間」を通じて、1回から2回に増やした。研究に必要なスキルを磨く独自科目「湖陵クエスト」も本格始動した。湖陵クエストは現在の普通科2年生も昨年度から試験的に取り入れていた。11日に行った研修もこの一環で、2年生198人が参加。生徒はグループのテーマに応じて、道教大釧路校、釧路公立大、釧路高専の3会場に分かれて指導を受けた。

各大学では生徒が戦国武将の織田信長の人物像などについて研究課題を発表し、大学教授から課題設定やテーマの広げ方について助言を受けた。釧路公立大で研修に参加した鮎川薫さん(16)は、1940年から41年にかけて作文教育を進めていた道内の教員が逮捕された弾圧事件「北海道綴方教育連署事件」を今後取り上げる予定で、「テーマのまとめ方がわからなかったが、アドバイスをもらってスッキリした」と話した。

釧路高専では理系分野に関心のあるグループ

教授らの助言受け「スッキリ」



高専生とまちづくりについて話し合う釧路湖陵高の生徒

が、電気工学、建築など各分野の研究室を見学。高専生から卒業研究の紹介を受けたほか、データの集め方や実験機器の使用法などについて、教授らから具体的なアドバイスをもらった。

高専の大塚友彦校長は「思うようないろんな成果が出て、研究の途中で学ぶことが最も大切」と激励。釧路湖陵の堀内伸校長は「生徒が大学生になったとき、研修が役に立ったと思うてもらえたらいい」と話した。(三島七海)

③外部講師を活用した各種講演会・講話の実施

生徒の興味・関心を高めるためには？

「見る・聞く・体験する」機会が大切！

様々な分野の講演会・講話等を開催

今年度の主な講演会・講話等

- 5/31 N H K の元アナウンサー（防災、表現方法）
- 6/ 8 R E S A S（地域経済分析）
- 7/17 外務省職員（外交の役割）
- 7/19 環境省職員（地球温暖化）
- 7/25 海上自衛隊舞鶴地方総監（組織）
- 9/20 東大大学院教授（生物学）
-



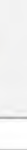
◆外交や外務省の仕事
を説明 外務省職員が外
交の役割や国際問題など
を話す講座が、釧路湖陵
高で開かれた。
外務省は全国の高校に
職員を派遣しており、大
臣官房考査・政策評価室
の田代久美課長補佐Ⅱ写
真Ⅱが普通科2、3年生



約220人を前に17日に
講演した。クイズを交え
ながら、外務省の組織や
仕事などをわかりやすく
説明。日本と国際社会の
平和の確保や、世界の諸
課題の解決などを目指し
ていると語った。
2年生の戸田百音さん
（16）は「外務省の仕事に
今まで以上に興味が湧い
た」と話した。

（出原千啓）

講話終了後には、校長室で希望者による座談会を開催！毎回大盛況



北海道新聞

2024/04/24 道東

第5種郵便物認可

主体的な学び 実践力育む

釧路湖陵高 道内初の文理探究科始動

大学や機関が助言、専用教室も

釧路湖陵高は本年度から、従来の普通科を「文理探究科」に学科転換し、「探究的な学習」を推進する。文理探究科を設置するのは、道内で初めて。生徒自らが課題を設定し、情報を収集、分析して学びを深めるのが特徴。国内外の大学や研究機関、企業など約50の団体からも書面での助言を受けている。堀浩伸校長は「生徒が知識を覚えるだけではなく、大学の進学後も見据えて研究の実践力を身につけてもらいたい」と話している。

文理探究科は、生徒の関心を踏まえた学びを進めようとする文部科学省の普通科改革の一環。釧路湖陵高で同科に入学したのは初年度160人だった。

生徒自らが学習テーマを設定する授業「総合的な探究の時間」を従来の週1回から2回に増やす。校外でのフィールドワークも積極的に実施する。新たに独自教材「湖陵クエスト」（週1回）を設け、仮説の立て方やデータ分析、プレゼンの仕方など「学習スキル」を磨いてもらう。

生徒の学習を手助けするのは、国内の大学や企業などからなる応援団「チーム湖陵」。現時点で道教大釧路校、釧路公立大、東京工科大、国際基督教大（I・C・U）、日銀釧路支店や北海道開発局などが生徒の課題研究などで助言する。将来的に共同研究にも取り組みたい意向同。

生徒が自由に研究できる場所として、空き教室を改装して「探究ルーム」も用意した。教室の正面、廊下側の壁、後側の壁にホワイトボードを設置し、グループ学習に役立ててもらった。教室は普段の授業のほか、休み時間や放課後でも利用

探究科は、生徒たちの自由な発想を育めるよう努めた」と抱負を語った。（上田惟高）



釧路湖陵高に新設された「探究ルーム」。生徒が課題研究する場所になる。

⑤教科横断型のP B L 授業の推進に向けた校内研修の実施

P B L 授業とは？

日本語では「問題解決型学習」「課題解決型学習」などと訳される勉強法です。生徒が自ら問題を見つけ、さらにその問題を自ら解決する能力を身に付ける学習方法のことで、湖陵では、SSHと普通科改革の両輪で、「教科等横断型」で取り組むこととしています。

今年度の計画

第1回 (5/30)

- 「教科書を見ながら連携できる授業を考えよう」

実践1 (7月) 「小論文」(SS情報と論理国語)

第2回 (9月)

- 研究授業と研究協議の実施

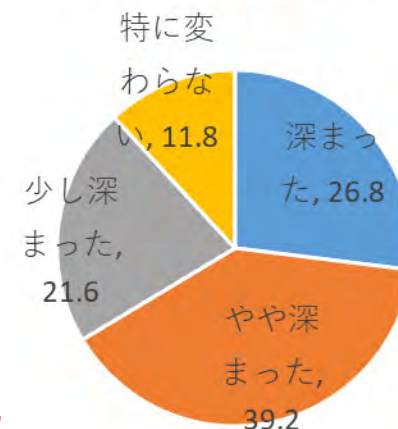
実践2 全教員が取組 (全員が最低1回)

第3回 (3月)

- 実践の成果と課題の明確化



横断型P B L 授業の理解度



生徒アンケートの結果から



学際的・複合的な学問分野の学びを実現

⑥組織の改組と「校内コーディネーター」の指名

令和4年度・5年度

探究科設置委員会

委員長：副校長

委員：教務部長、進路指導部長、SSH推進部長、外部コーディネーター事務主任

改組

令和6年度～

文理探究科推進委員会

委員長：教務部長

委員：進路指導部長、SSH推進部長、外部コーディネーター、校内コーディネーターSSH推進部員、教務部員

校内コーディネーター指名

企画・準備から実践・運営に構成員と体制を改組

● 校内コーディネーター（CN）の指名

地理歴史科教諭（教務部・男性56歳）、地域教育コーディネーター養成講座修了（島根大学）、元公営塾塾長

今後の課題

- 外部CNの人件費は令和6年度限りであること。【R7からはどうなるのか？】
- 校内CNについては、「働き方改革」の観点から、業務（授業）の軽減が必要であること。【加配or時間講師】
- 校内CNについては、人事異動等を踏まえ、業務の継続性から複数名配置する必要があること。【研修体制】

令和7年度以降の教育課程（文理探究科）

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
1 年		現代の国語		言語文化		地理総合		歴史総合		数学Ⅰ			○K S 数学Ⅰ		物理基礎		生物基礎		体育		保健	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ		英語コミュニケーションⅠ			○S S 英語		家庭基礎		K QⅠ	総合的な探究の時間		L H R
2 年	人文重点	文学国語		古典探究		地理探究 日本史探究 世界史探究		公共		○K S 数学Ⅱ						論理国語		化学基礎 地学基礎		体育		保健	英語コミュニケーションⅡ			論理表現Ⅱ		○S S 情報		K QⅡ	総合的な探究の時間	L H R		
	理数重点															化学基礎		○K S 物理 ○K S 生物																
3 年	人文重点	文学国語		古典探究		○ゼミナール地理 ○発展日本史 ○発展世界史		論理国語		政治経済		倫理		○数学研究Ⅰ ○応用英語		○数学研究Ⅰ		○K S 生物○K S 地学 ○K S 物理○K S 化学から2科目			体育			英語コミュニケーションⅢ			論理表現Ⅲ		K QⅢ	総合的な探究の時間	L H R			
												○音楽表現 ○美術表現 ○書道表現				○K S 生物																		
	○KS数学Ⅲ									○K S 化学		○K S 物理																						
	理数重点							時事問題研究		○KS数学探究						○K S 化学				○K S 生物														

文理融合選択科目

今後の課題

探究科目

- 「文理融合」の教育課程の編成に伴う展開数の増加により、授業時数が増加すること。【定数増が必要】
- K Q の開設により、週32単位（7時限を週2日）で週33単位を運用しており、夏休みの延長などにより、授業時間数の不足が懸念されること。【55分授業の実施など、週33単位を目途に検討中】

質の高い課題研究とは何だと思いますか？（理数科）

分かりやすい
他の方法 役立てる 意見 生かせる
トライアンドエラー... 明らか 自身 分野 わかる 方法 行える
答え 立てる 重ねる 解決 出す 見つける 失敗 見つけ出す
ネガティブ 結論 調べる 先行研究
世界 行う いく
突き詰める 課題 データ 疑問
仮説 高い
新しい 考える できる
利用可能 明確 応用
必要 トピック 実験 考察 狭い 1つ 結果 知る 地球
深い 繋げる 目標 近い
そろえる 有効 多面 創り出す
続ける 設定 change

質の高い課題研究とは何だと思いませんか？（普通科）

[illegible]